

【配布資料－発表スライドを精選したものです】



東京学芸大学
Tokyo Gakugei University

**新しい時代に必要な資質・能力の
確実な育成を目指して
～ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現～
【続編】**

東京学芸大学 教授 森本康彦

E-mail: morimoto@u-gakugei.ac.jp

令和5年9月14日

令和5年度 岩手県教育研究所連盟研修会 兼 岩手県立総合教育センター公開講演

1

知っておきたいこと(その①)

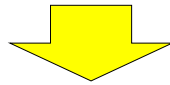
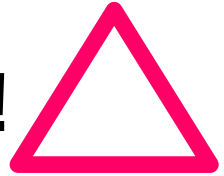
Q①:

なぜ、「学び」にICTを活用するのか？

2

なぜ、「学び」にICTを活用するのか？

情報活用能力を育成するため！



教科等での**学びそのものを促進**させる！
(あらゆる資質・能力をより育成する)

3

ICTを活用することは目的ではない！

⇒単なる手段(ツール、文房具)

私たちのミッションは「学び」をつくり、
子供達の手(資質・能力)を育むこと
⇒そのためにICTを活用する

4

知っておきたいこと(その①)

Q①:

**(ICTを活用した)「学び」にとって、
一番大切なことは？**

5

「やってみよう！」

主体性

6

「学びのコミュニティ」づくり

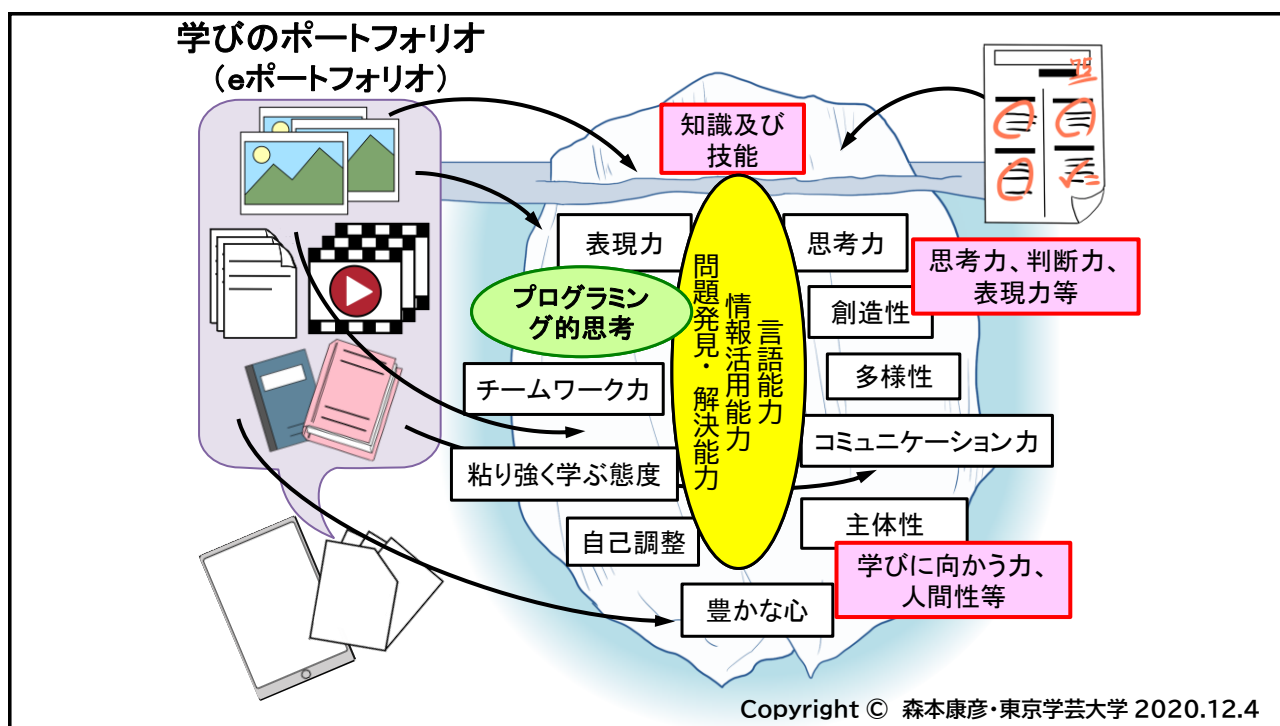


7

Learning by Doing

為すことによって学ぶ

8



9

そもそも
「学ぶ」とは？
ただ暗記するのではなく、
自ら考え、
「気づく」ことです

10



メタ認知

授業づくりのポイントは、
いかに、子どもたちに
「気づき」を与えるか！

11

では、

「定着」 するとは？

自らの言葉で、きちんと

「説明できる」

(表現)

ようになることです

12

表現には4つある

1. 文字で書く
2. 口で言う
3. 図で描く
4. 体(動作)で表す

13



どこをどう飛んだか、
それが一番大切

これが「個別最適な学び」。。。
机上の話ではないです

14

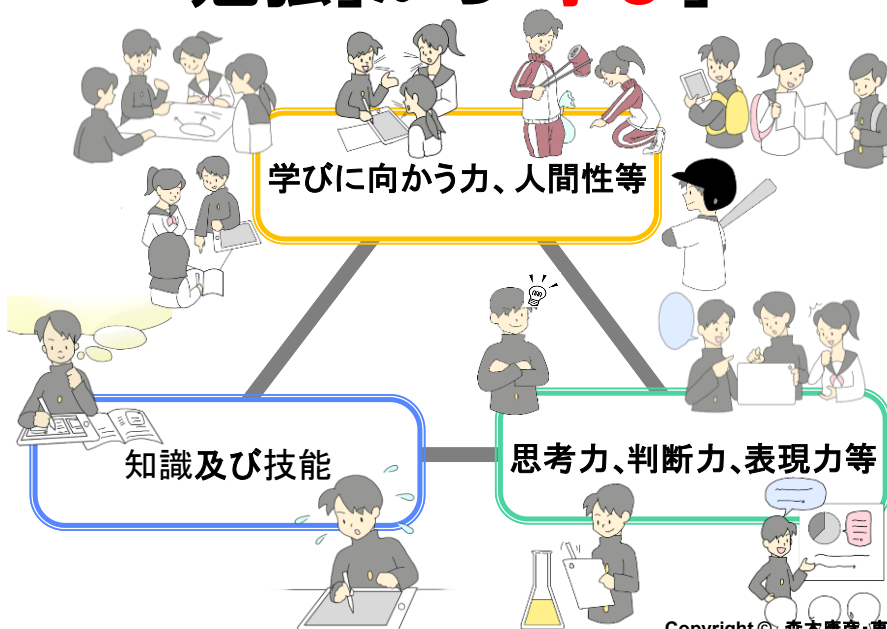
知っておきたいこと(その②)

Q②:

授業でICTを効果的に活用するには？

15

「勉強」から「**学び**」へ



Copyright © 森本康彦・東京学芸大学 2020.11.11

16

これら「学び」を実現させるために

- 学び方
主体的・対話的で深い学び(教員側から視点)
個別最適な学び(児童生徒側から視点)
- 評価の方法
学習評価
(観点別学習状況の評価、個人内評価)
- ツール
学びのポートフォリオ
(学習データ/eポートフォリオ)

17

「主体的・対話的で深い学び」
の実現が求められます

従来の知識を一方通行で与える
「一斉授業」だけでは、ICTを活用する機会が
ぐんと減ってしまいます・・・

18

主体的・対話的で深い学び
(アクティブ・ラーニング)



全体

学びのポートフォリオ
(eポートフォリオ)



ピア(グループ)



相互評価,
学び合い

個人



自己評価

19

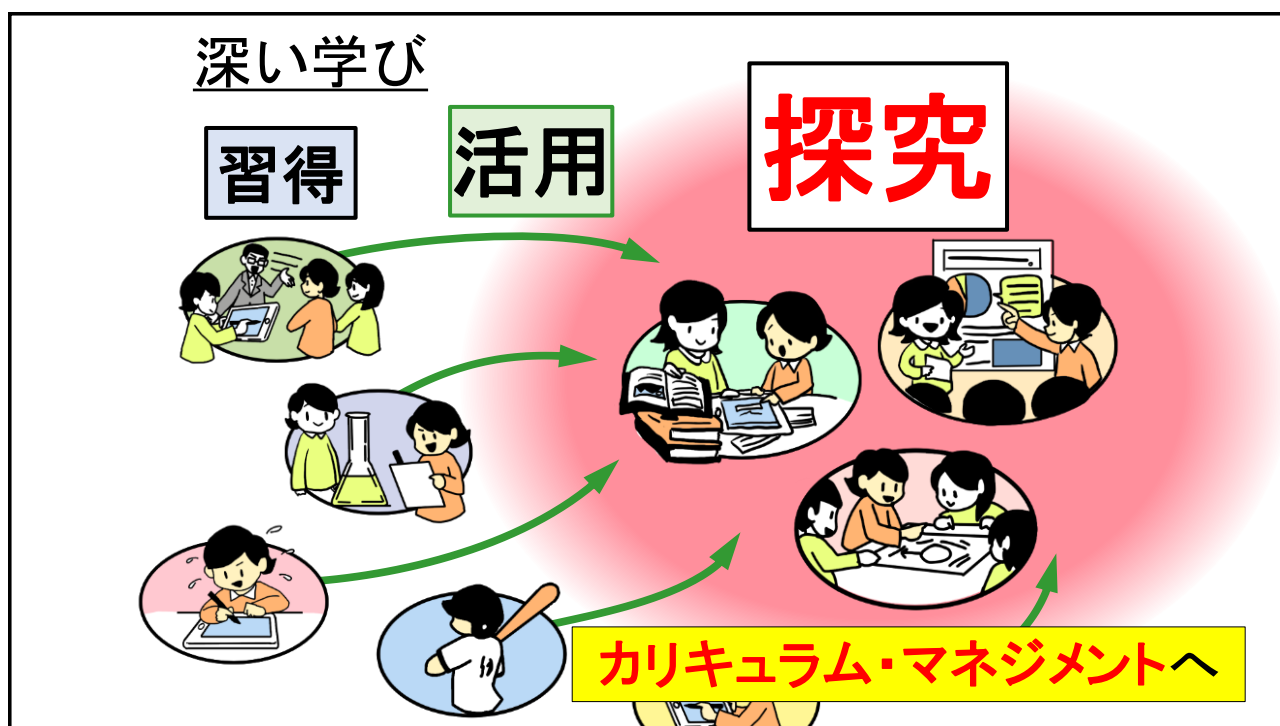
アクティブ・ラーニングの1つ目の視点

- **深い学び**

習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているか。

文部科学省, 教育課程企画特別部会における論点整理について(報告), 平成27年8月26日

20



21

アクティブ・ラーニングの第2の視点

・対話的な学び

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているか。

文部科学省, 教育課程企画特別部会における論点整理について(報告), 平成27年8月26日

22

対話的な学びの種類

① 仲間との対話(学び合い／相互評価)

23

「相互評価／学び合い」のよさ

- ・教える方が学習効果が高い
- ・より気付く
- ・自己評価につながる
- ・やる気になる
- ・自分の学習状況が分かる
- ・学び方を学べる



- ・教師と違った教え方
- ・考えが広がる
- ・テストの点数以上に内省を促す
- ・学びと評価が一体化(学びそのもの)
- ・真正性

24



25

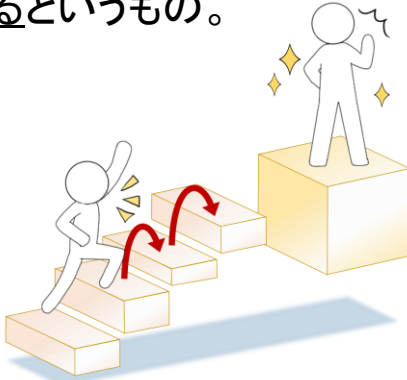
対話的な学びの種類

- ① 仲間との対話(学び合い／相互評価)
- ② 教師との対話(フィードバック／教員評価)

26

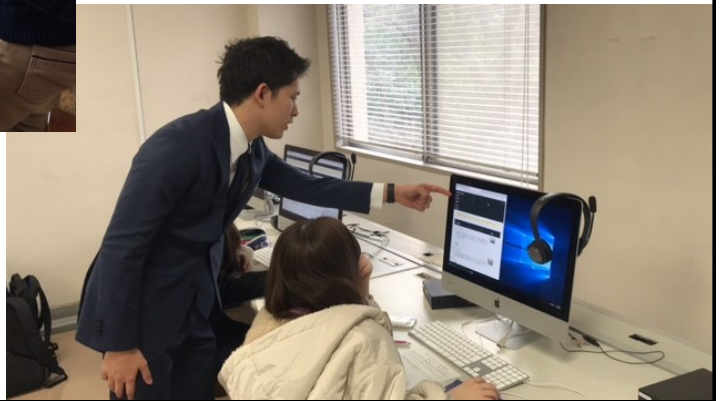
学習支援としての 「足場かけ(scaffolding)」

「スキヤフオールディング(scaffolding)＝足場かけ」とは、熟達者が学習者に向けて、適切な援助や声掛けなどを行うことで必要な足場を固めてやり、徐々に自分の力でできるよう成長をサポートするというもの。



あたかも生徒が、自分自身の力で出来るようになったと思わせるくらいの適応的な「足場かけ」が理想！

27

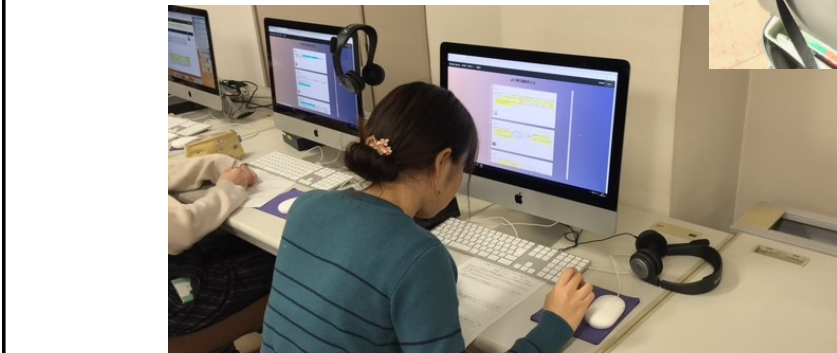
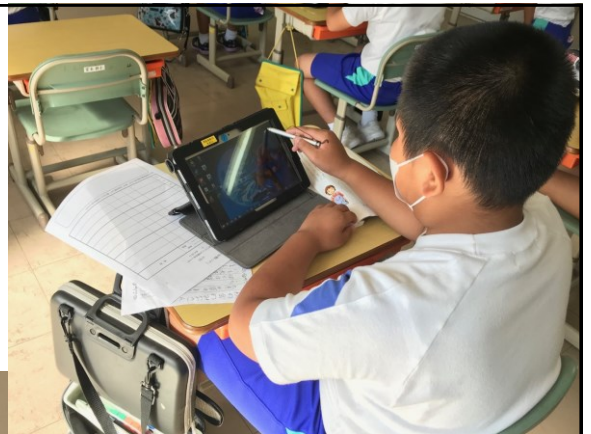
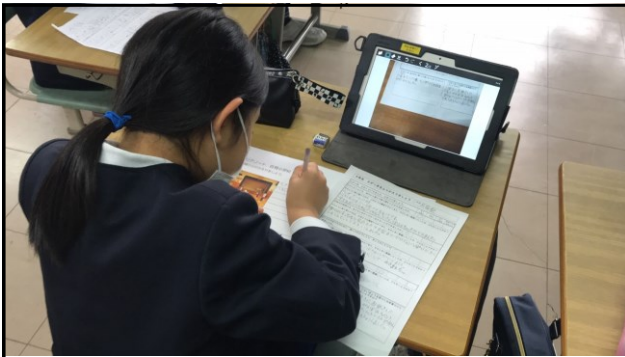


28

対話的な学びの種類

- ① 仲間との対話(学び合い／相互評価)
- ② 教師との対話(フィードバック／教員評価)
- ③ 自己との対話(自問自答／自己評価)

29



30

アクティブ・ラーニングの3つ目の視点

• 主体的学び

子供たちが見通しを持って粘り強く
取り組み、自らの学習活動を振り返り
返って次につなげる、主体的な学
びの過程が実現できているか。

文部科学省, 教育課程企画特別部会における論点整理について(報告), 平成27年8月26日

31

主体的な学び **AARサイクル**



32

学びの振り返りモデル

内容のまとめりごとに

学びが起きるフェーズ



学びを振り返るフェーズ



33

ICTは、

当たり前の道具
として使って！

普段の授業 with ICT

34

ICTを活用した授業とは

普段の授業 + α

+ α の部分がICT活用

さらに、気付きを与え、学びを深めてください！

さらに、対話を増やしてください！

さらに、子どもたちを主体的にさせてください！

35

知っておきたいこと(その③)

Q③:

何のソフト(アプリ)を使うといいですか？

36

何を学ばせたいか、
どんな資質・能力を育てたいかによる
⇒ソフト（アプリ）＜授業（学び）そのもの

強いて言えば、

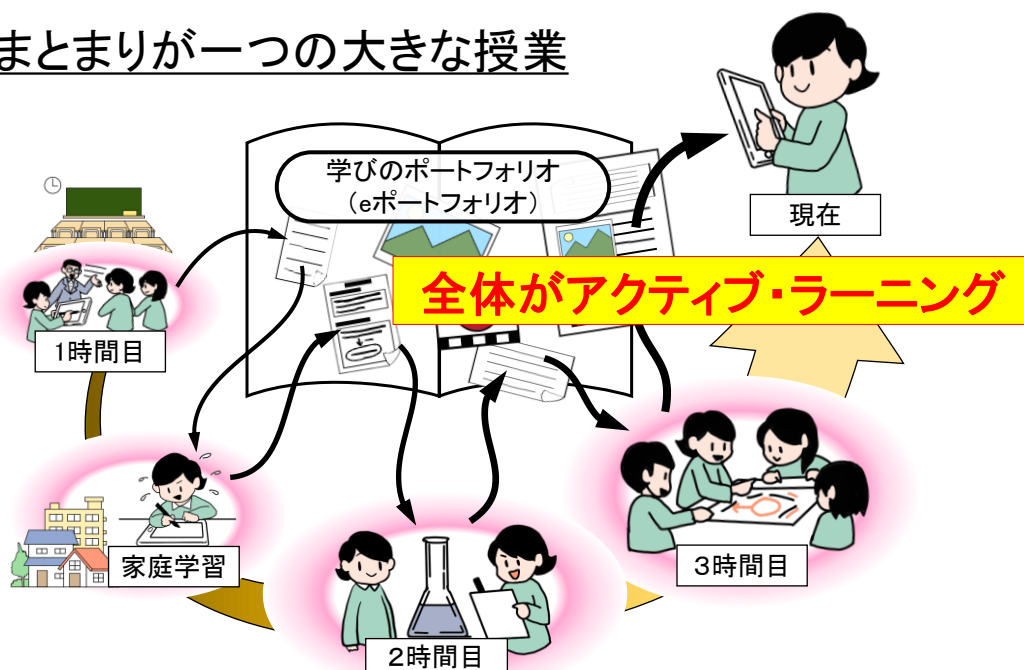
✓指を差して対話できるモノ

✓学んだことを残し、次の時間、別の単位、学年・教科を
跨いで学び続けられるモノ

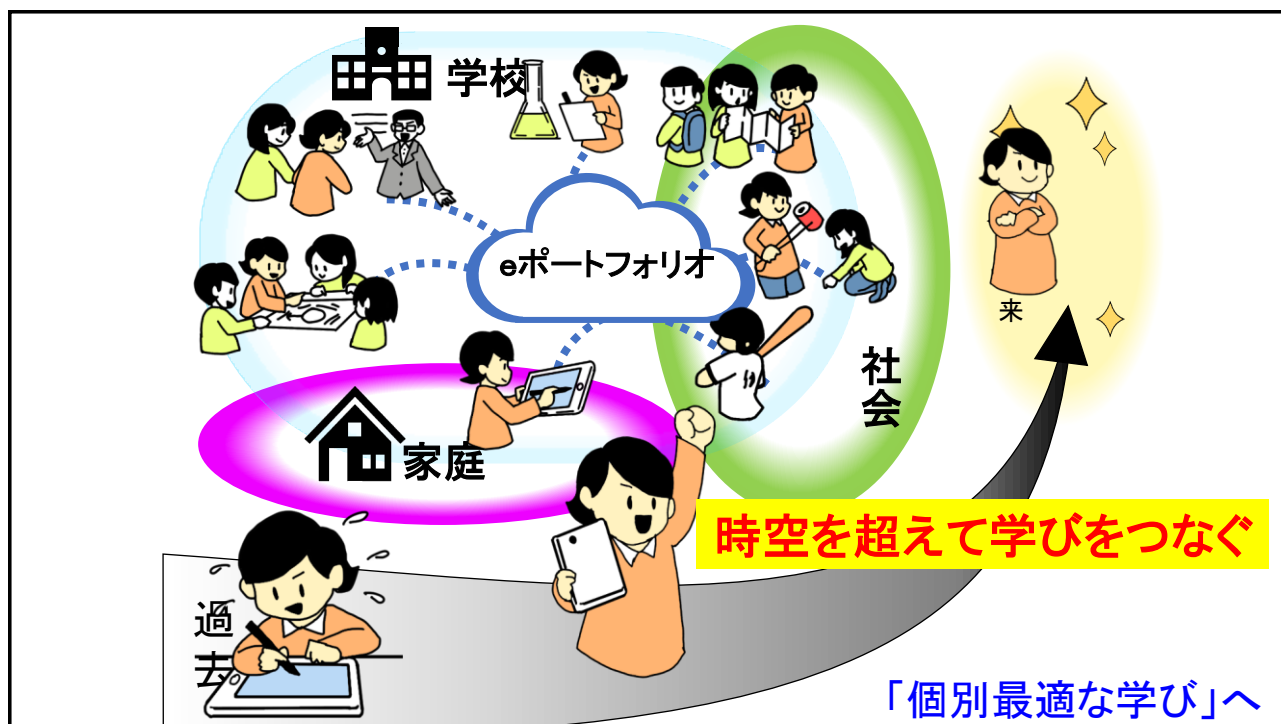
⇒「**学びの足跡**」が残ることで、成長が見える化

37

内容のまとまりが一つの大きな授業



38



39



知っておきたいこと(その④)

Q④:

ICTを活用した授業は、どうつくればいいのか？

40

学びが起きる(気づきを得る)4つのシーン

1. 「教わる」とき
2. 「考える」とき
3. 「やってみる」とき
4. 「対話する」とき

教わる

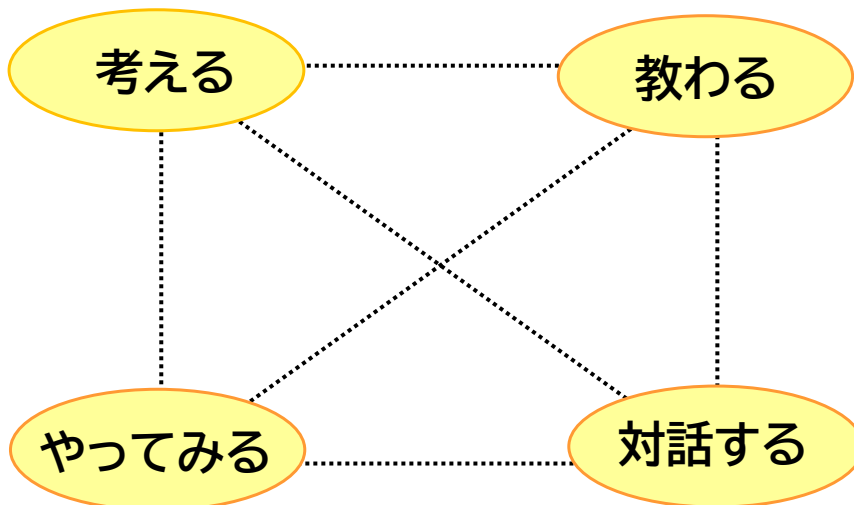
考える

やってみる

対話する

41

学びが起きる(気づきを得る)4つのシーン



42

4つのシーンの例

43

教わる

①教材をみる／説明をきく

44

教わる



① 教材をみる／説明をきく

教員が提示した教材や配付された資料を見たり、説明を聞いたりして授業の内容や課題を教わる

45

やってみる

- ①制作・作成する
- ②情報を収集、整理・分析する
- ③演習する
- ④課題を解決する
- ⑤実技・実演する
- ⑥観察・実験・鑑賞する
- ⑦実習・体験する
- ⑧共同編集する
- ⑨問題発見・問題解決する

46

やってみる



① 制作・作成する



③ 演習する



⑤ 実技・実演する



④ 課題を解決する



② 情報を収集、整理・分析する



⑥ 観察・実験・鑑賞する

⑨ 問題発見・問題解決する

⑧ 共同編集する

⑦ 実習・体験する

47

考える

- ① 原因や理由を考える
- ② 比較して考える
- ③ 改善点や工夫点を考える
- ④ 具体化・抽象化して考える
- ⑤ 整理・分類する
- ⑥ 関係付け・順序付けて考える
- ⑦ 予想や仮説を立てる
- ⑧ 多面的・批判的に考える
- ⑨ 精選して評価する

48

考える

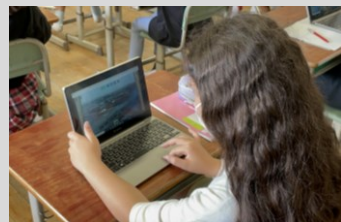
① 原因や理由を考える



③ 改善点や工夫点を考える



⑤ 整理・分類する



② 比較して考える

④ 具体化・抽象化して考える

⑥ 関係付け・順序付けて考える

⑨ 精選して評価する



⑧ 多面的・批判的に考える

⑦ 予想や仮説を立てる

49

対話する

- ① 学び合い・議論する
- ② 発表・プレゼンする
- ③ 仲間と対話する(相互評価)
- ④ 教員と対話する(教員評価)
- ⑤ 他者と対話する(他者評価)
- ⑥ 自分と対話する(自己評価)

50

対話する



① 学び合い・議論する
グループやペアで考えを説明したり、質問したりしながら学び合う／互いの考えを共有し、議論する



② クラス全体と話す
クラス全体で考えたこと、気付いたことを共有する



③ 仲間と対話する(相互評価)
仲間の学習活動や学習記録にコメント(相互評価)する



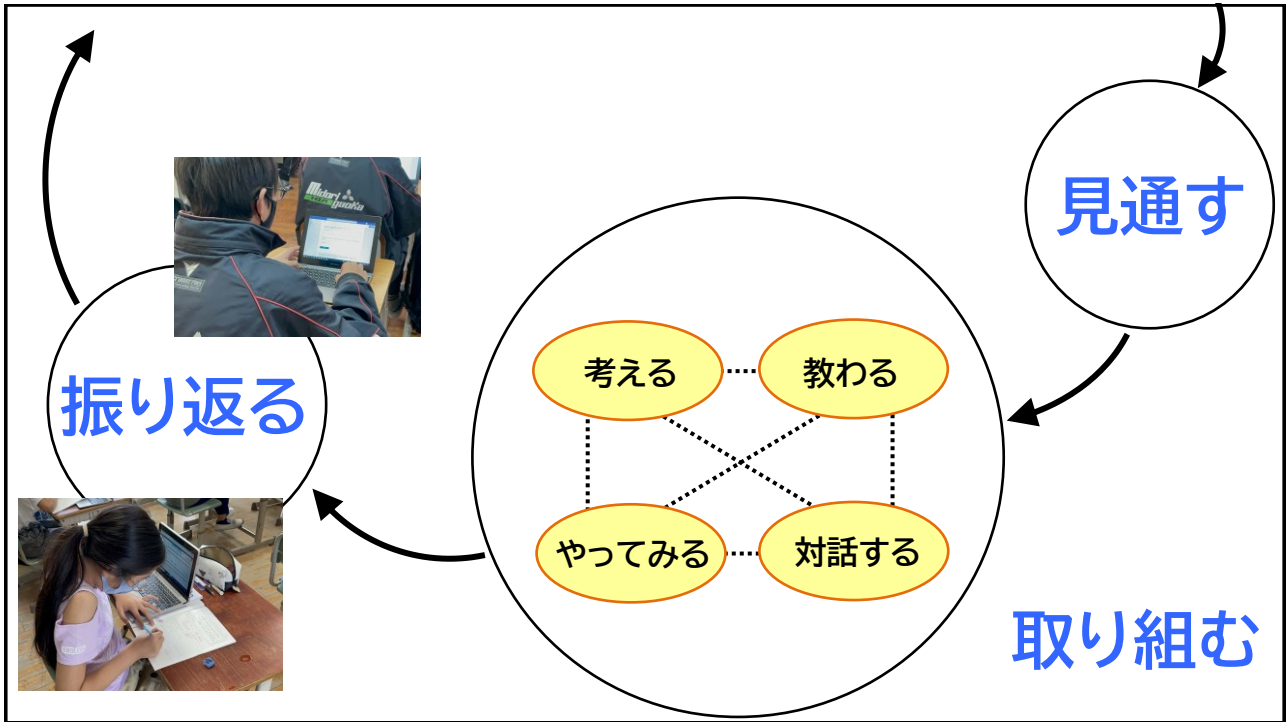
④ 教員と対話する(教員評価)
教員に自分の考えを説明したり、教員からコメント(教員評価)をもらう



⑥ 自分と対話する(自己評価)
自分が考えたこと、学習成果物等を自己評価する

⑤ 他者と対話する(他者評価)
地域の人や専門家に自分の考えを説明したり、コメント(他者評価)をもらう





ICTを活用した授業の作り方

53

作り方①

行いたい授業がすでにあるとき
ICTを活用して $+\alpha$ でよりよい授業へ

54

つくり方①

ICTを活用して+ α でよりよい授業へ

1. 教わる をICTを活用して+ α する
2. 考える をICTを活用して+ α する
3. 対話する をICTを活用して+ α する
4. 学びを「見通す」ことで児童生徒を主役にする
5. 学びを「振り返る」ことで、学びと学びをつなぐ

55

つくり方①

1. 教わる をICTを活用して+ α する

授業の中で 教わる のシーンを見つけてください！

児童生徒に、気付きを与えたい「ここだ！」という時、タイミングよく、ICTに映し出した資料を指差して、「何で？」「何か見える？」「比べたらどう？」など、気付きを与えるのためのプロンプト（声かけ）を
子供達に投げかけてください！

56

つくり方①

1. 教わる

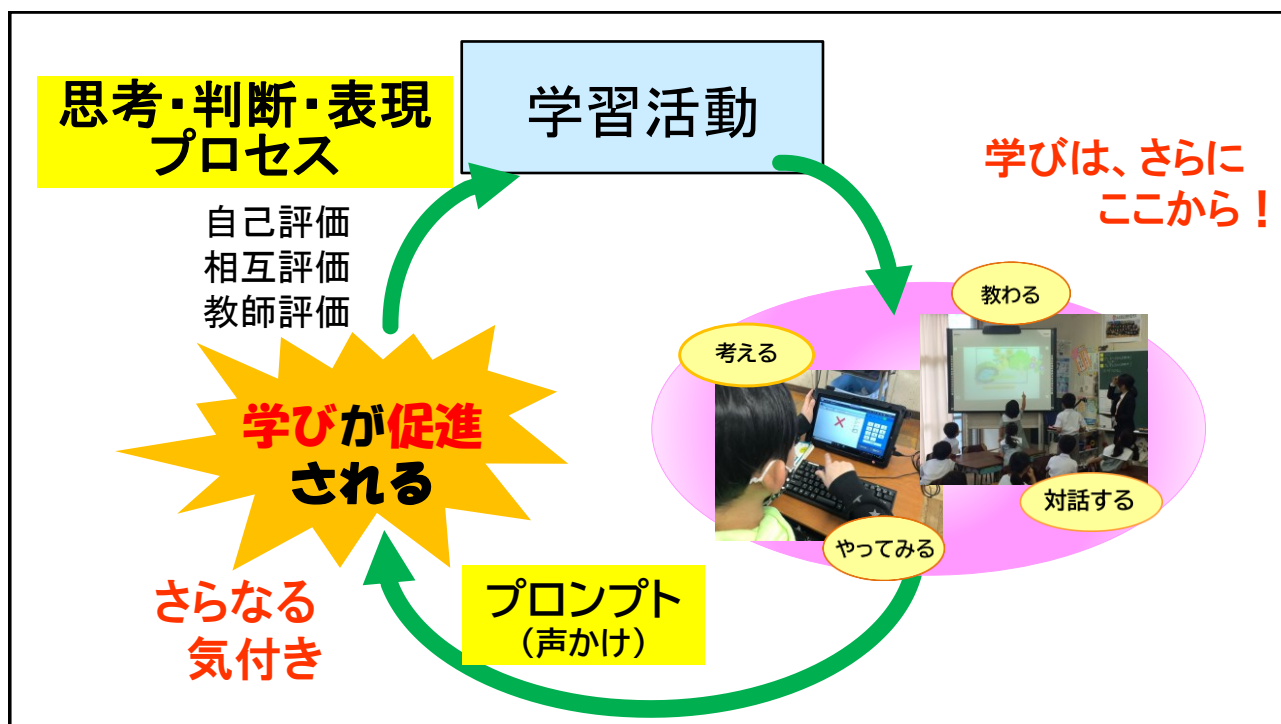
をICTを活用して+αする

学びを促進させるプロンプト(声かけ)



さらなる「気付き」
を与える
ボケとツツコミ

57



58

学びの振り返りを促すプロンプトの例①

「深く考えさせる」

- なぜ？
- どうして？
- もう少し詳しく説明したらどうなる？

「見通す」

- どのように進めていけばいいですか？
- 「めあて」は何でしたか？
- まず、何をしたらいいかな？
- 最後は、どうなればいいですか？

59

学びの振り返りを促すプロンプトの例②

「再確認させる」

- どうしたらできましたか？
- なぜできなかったのでしょうか？

「学びを振り返らせる」

- ～から何が学びましたか？
- よかった点／改善点は何ですか？

「次につなげる」

- これを、今後どう生かしていきますか？
- 次、同じような時には、どうしますか？

60

思考を促すプロンプトの例①

「捉える」

- ～についてどのように理解していますか？
- ～はどんな特徴がありますか？

「解釈する」

- ～から何が分かりますか？
- ～は何が起こっていますか？

「予想する」

- ～はどうなると思いますか？
- どのくらい～なると思いますか？

61

思考を促すプロンプトの例②

「考えを広げる」

- ～からどんなことが思い浮かびますか？
- ～から気付いたことはありますか？

「比較する」

- ～について比較すると何がどう違いますか？
- ～はどう変わりましたか？

「分類する」

- ～はどのように分けられますか？
- ～はどこに当てはまると思いますか？

62

思考を促すプロンプトの例③

「関係を見付ける」

- ・～はどのような関係がありますか？
- ・～はどのような順番になりますか？

「理由付ける」

- ・どうして～になるのですか？
- ・～になる原因は何ですか？

「まとめる」

- ・～をまとめると何が言えますか？
- ・一言で言うとどういうことでしょうか？

「多面的に捉える」

- ・もし～なら、どうなりますか？
- ・他にどんなことが考えられますか？

63

つくり方①

1. **教わる** をICTを活用して+αする

先生方からのプロンプトにより、児童生徒には
沢山の気づきが頭の中に溢れてきます！

さあ、頭の中からその気づきが消えてしまわない
うちに、次の学びのシーンに進みましょう！

64

作り方①

2.

考える

をICTを活用して $+\alpha$ する

授業の中で 考える のシーンを見つけてください!



65

作り方①

2.

考える

をICTを活用して $+\alpha$ する

考える時に、「ICTを使わなければいけない!」という
のではありません。もちろん、使わなくてもいいです。
考えやすい方法で!

- タブレットに書き込んだり、
- 思考ツールを利用したり、
- 実物を触って考えたり、
- ホワイトボードでも、紙のノートでも。
- ...

では、どこにICTを活用するのか?

66

作り方①

2. **考える** をICTを活用して+ α する

それは、

考えたことを、ICTにeポートフォリオとして残して、それを次(後)の学びに教材として用いる!

学びをつなげる接着剤になり、
学びの足跡として残る

※ 紙に書いたもの、実物は、必ず写真にとって、
eポートフォリオ化すること。気づきのメモと一緒に!

67

作り方①

3. **対話する** をICTを活用して+ α する

授業の中で **対話する** のシーンを見つけてください!

まずは、「①**学び合う・議論する**」がいいです。
対話するシーンがなければ、対話するシーンを追加してください! 学びの幅がどんどん広がって行きます。

ただ、絶対にやって欲しいことがあります。
気づき(学び)を起こすおまじないです!

68

つくり方①

3. 対話する をICTを活用して+αする

ピンポイントの資料、自身のeポートフォリオを
ICTに表示させ、指を差して対話させてください！



69

つくり方①

4. 学びを「見通す」ことで児童生徒を主役に！

子どもたちが、
自ら自身の学びを操縦する感じを引き出す！
学びの最初に「見通す」を入れる！

学びを操縦する
(drive their learning)



70

つくり方①

4. 学びを「見通す」ことで児童生徒を主役に!

見通す

「見通す」の三カ条



① **ゴール** (めあて、課題)
を知る。



② **これまでの学びと
つなげ**



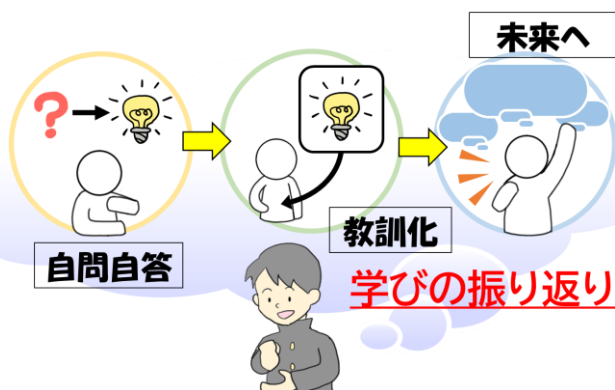
る。
③ **どのように取り組むか
を決める。**

71

つくり方①

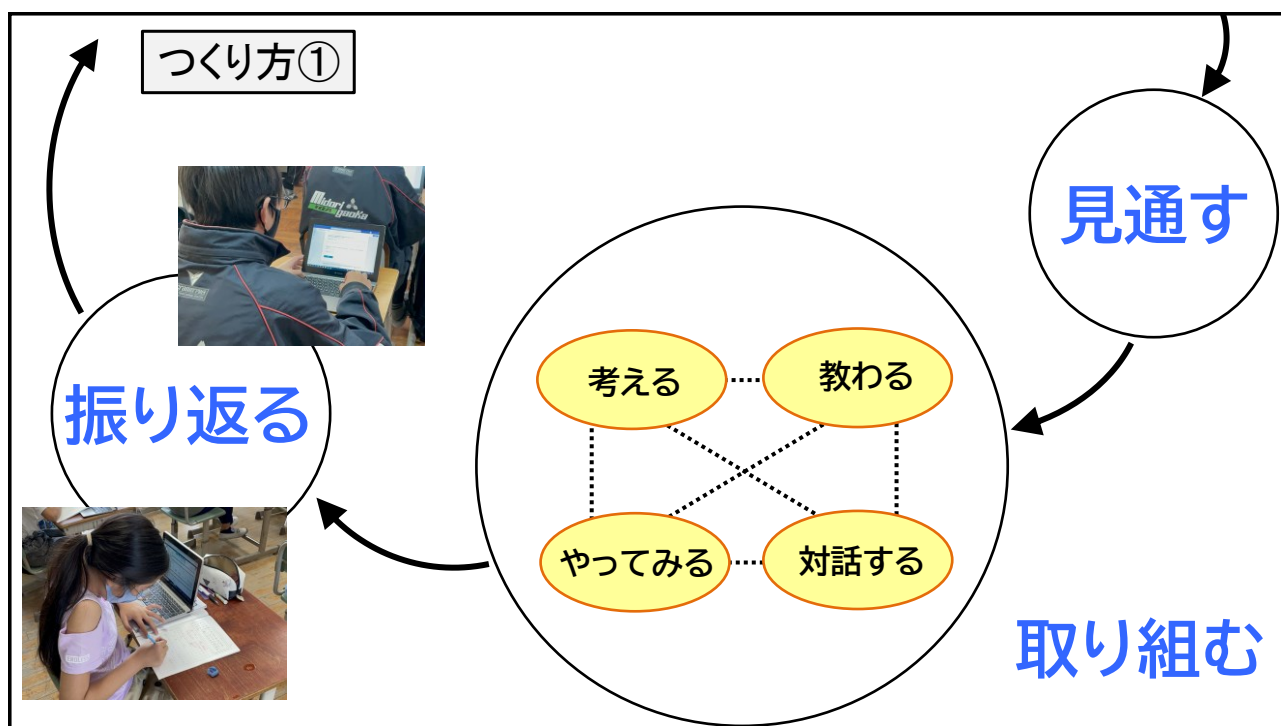
5. 学びを「振り返る」ことで学びをつなげる

学びを「振り返る」ことは、
学びをやりっぱなしにしない最良の学びの方法！

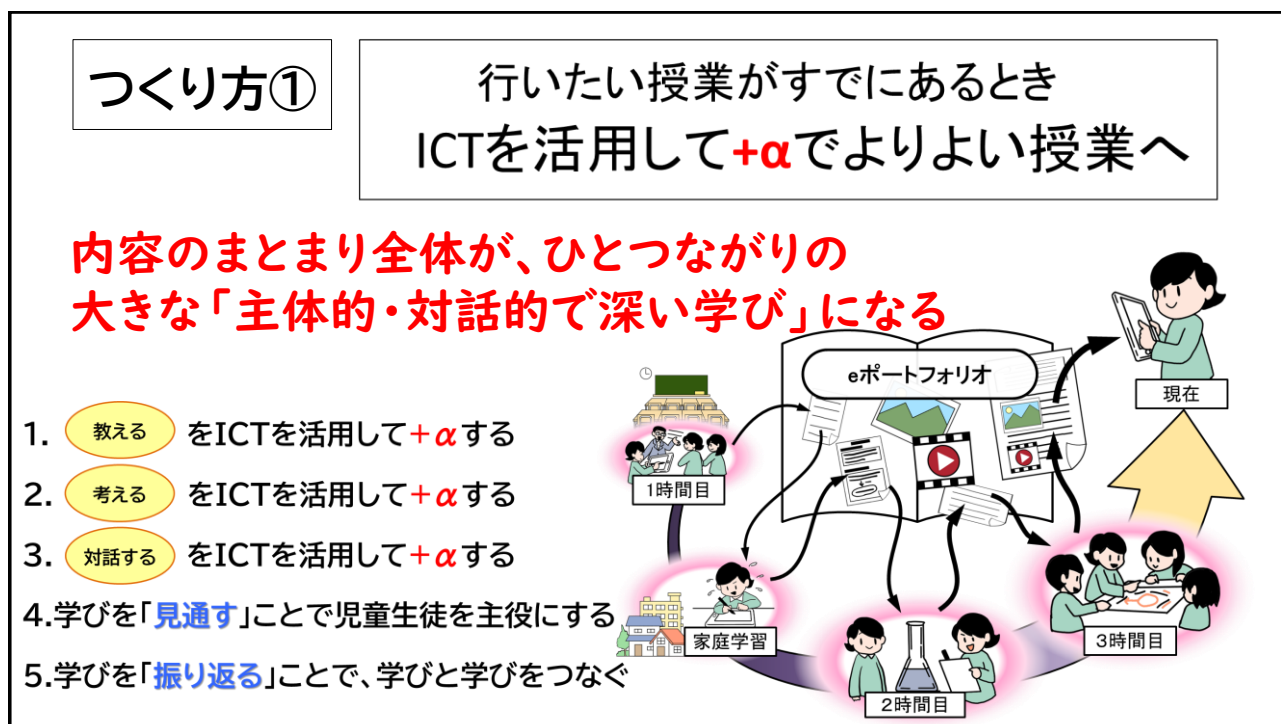


振り返りは、
これまでの学びを
整理し、定着を図
るとともに、次の学
びにつけてくれる

72



73



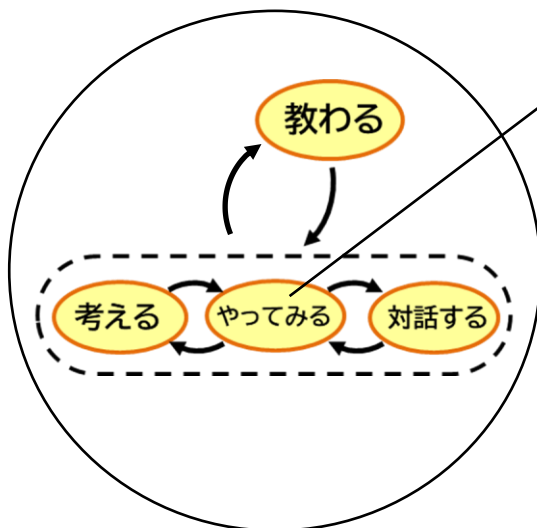
74

つくり方②

授業のイメージができていないとき
ICTを活用して**新しい**授業づくりへ

75

「取り組む」の4つのシーンの基本形



ポイント:

「やってみる」が学びの軸になります！
この「やってみる」をしっかりつくること
で、ICTを活用した学びが一貫した
ものになります！

76

やってみる

「やってみる」が学びの軸です！
先生のやりたい授業は、①～⑧の
どのタイプの学びですか？

- ①制作・作成する
- ②情報を収集、整理・分析する
- ③演習する
- ④課題を解決する
- ⑤実技・実演する
- ⑥観察・実験・鑑賞する
- ⑦実習・体験する
- ⑧共同編集する
- ⑨問題発見・問題解決する

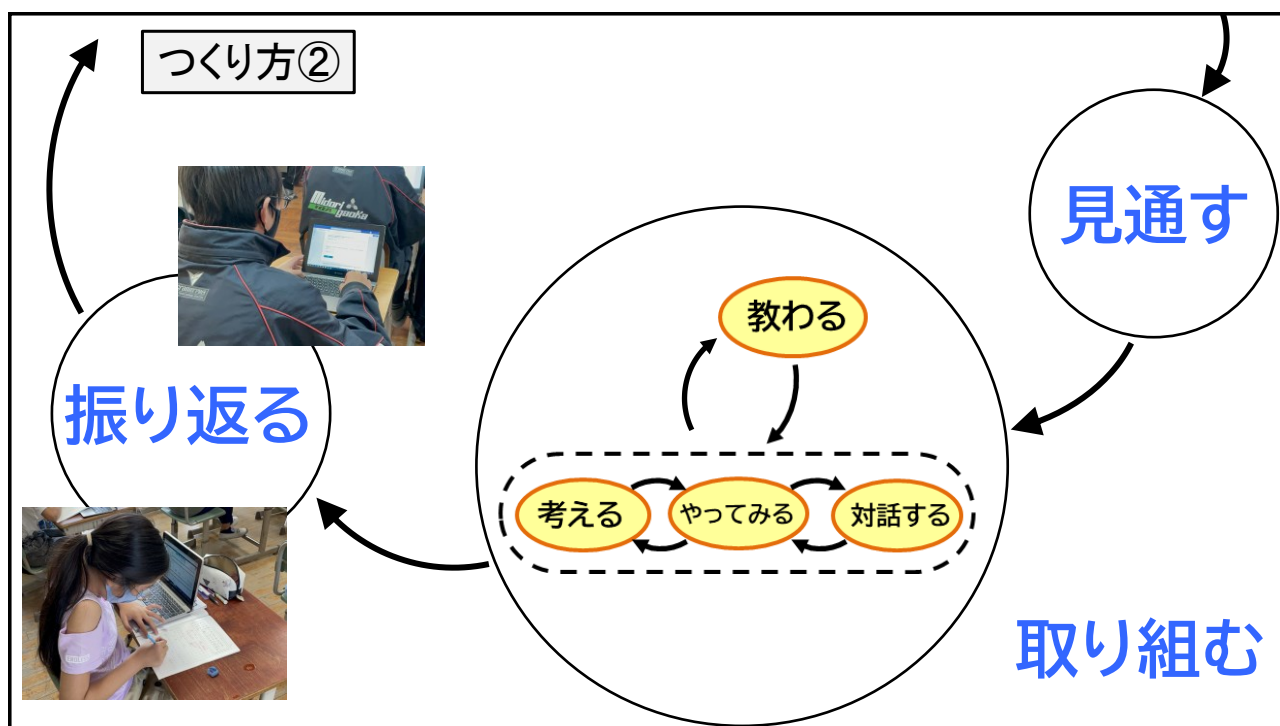
77

つくり方②

ICTを活用して新しい授業づくりへ

1. やってみる を決めて学びの軸をつくる
2. 教わる を取り組む課題や学習内容にあわせてつくる
3. 考える と 対話する を組みあわせて学びを広げる
4. 学びを「見通す」ことで児童生徒を主役にする
5. 学びを「振り返る」ことで、学びと学びをつなぐ

78



79

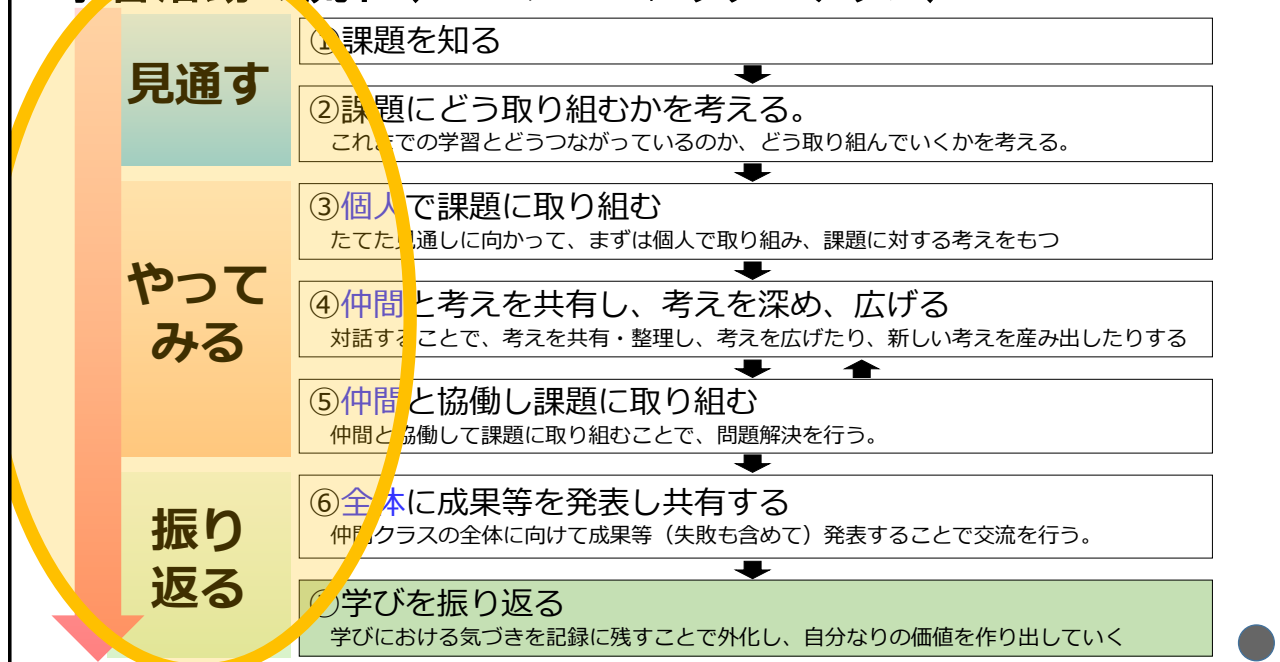
知っておきたいこと(その⑤)

Q⑤:

**ICTを活用した典型的な授業の流れを
一つ示すとしたら?**

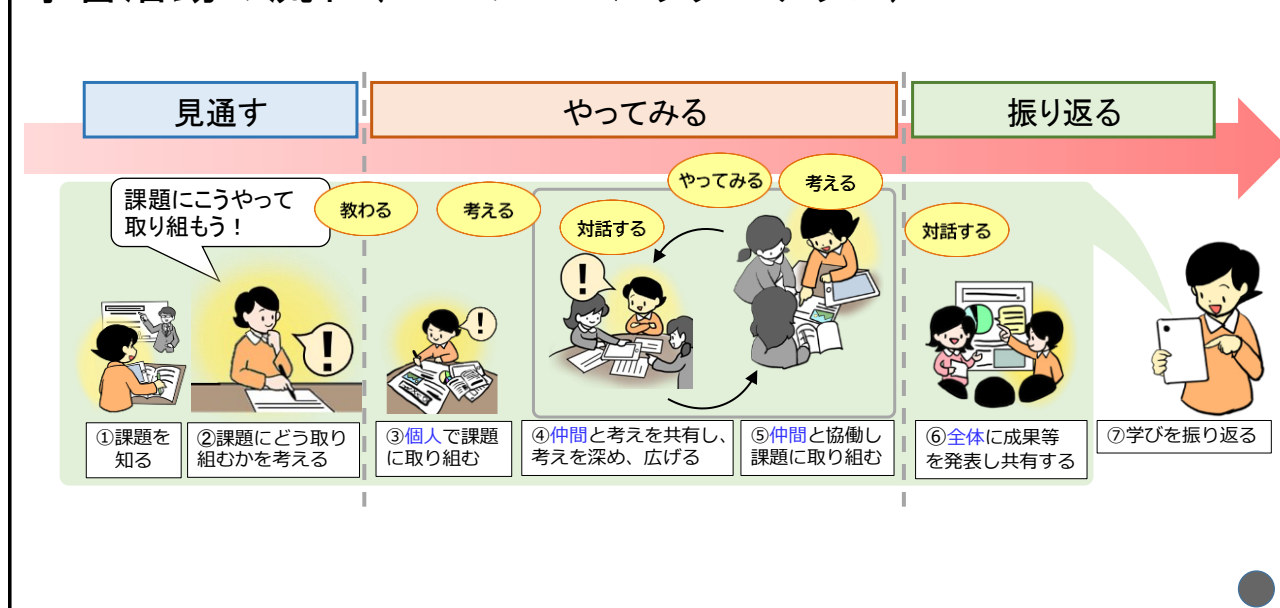
80

学習活動の流れ(7つのベーシックステップ)



81

学習活動の流れ(7つのベーシックステップ)



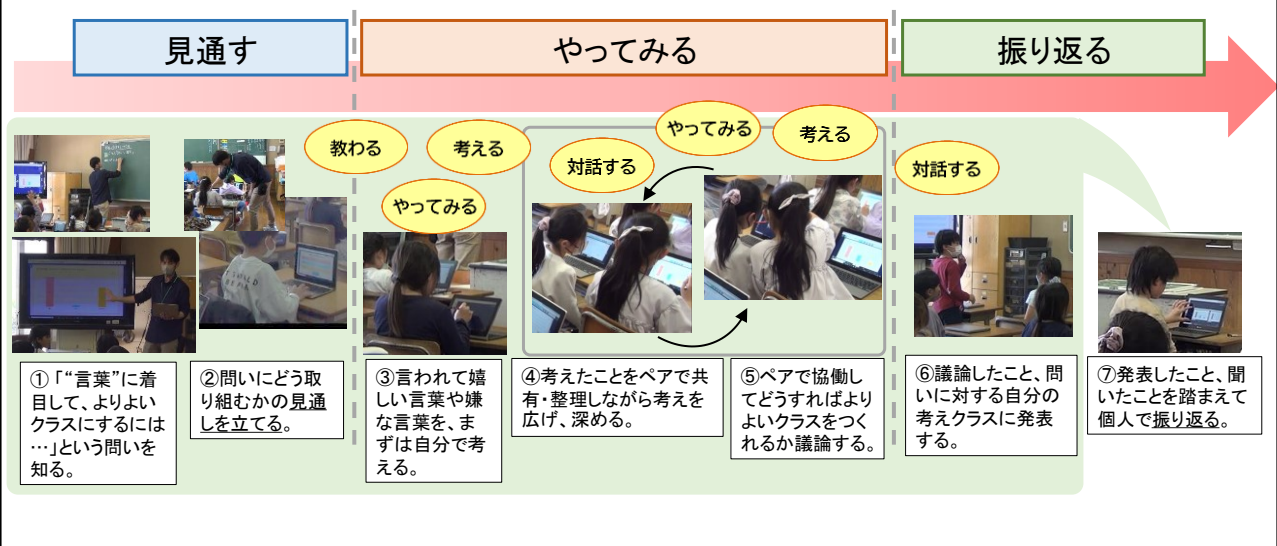
82

例1：国語の授業「小・2年生の漢字を振り返る、文をつくる」



83

例2：小・道徳の授業「毎日の生活をふりかえる」



84

知っておきたいこと(その⑥)

Q⑥:

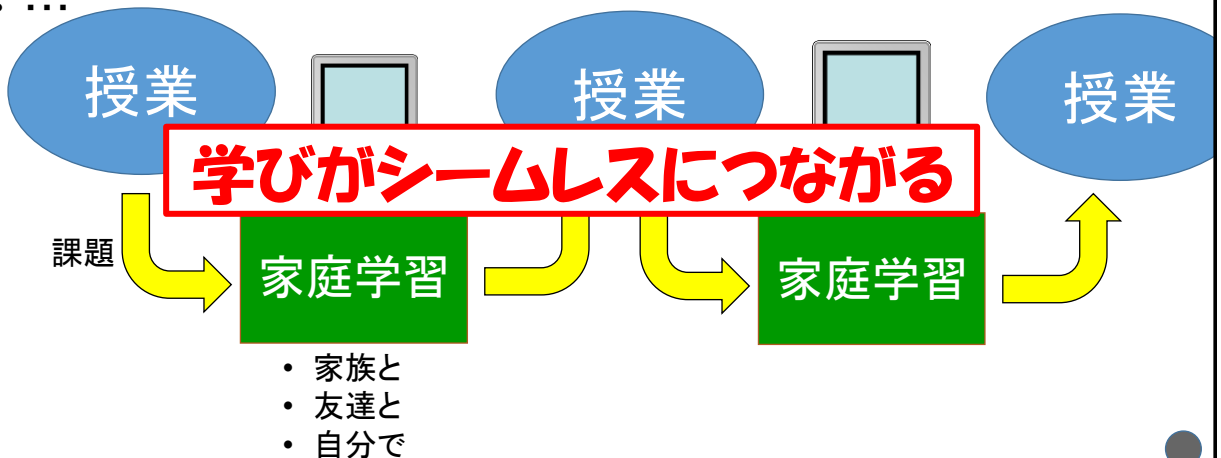
家庭学習は、ICTを使った補習？

85

家庭学習でのタブレット利用

86

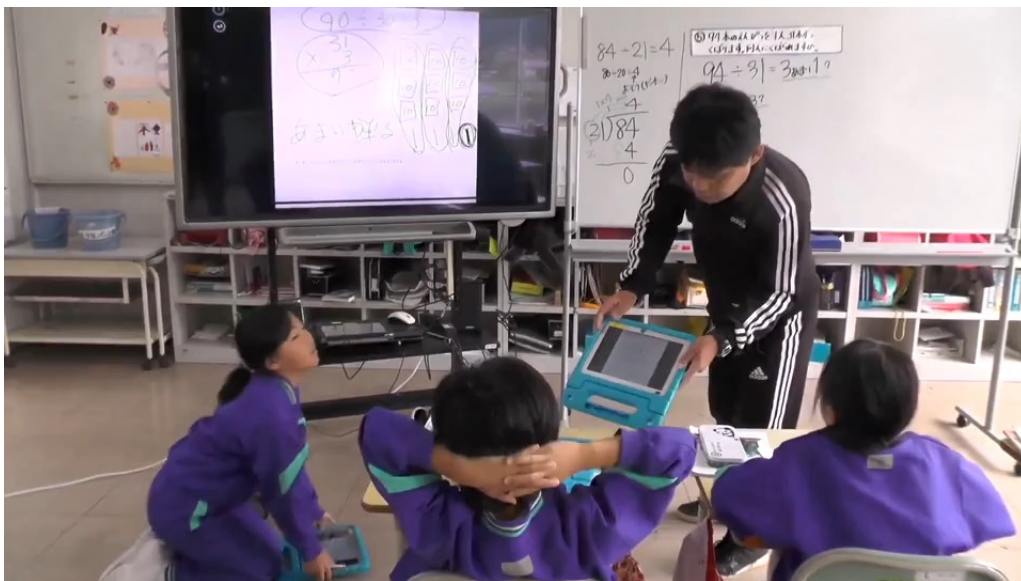
- 大切なところ
- 学び直してほしいところ
- 調べておいて欲しいこと
- 気づいておいて欲しいこと
- ...



86

授業中の様子

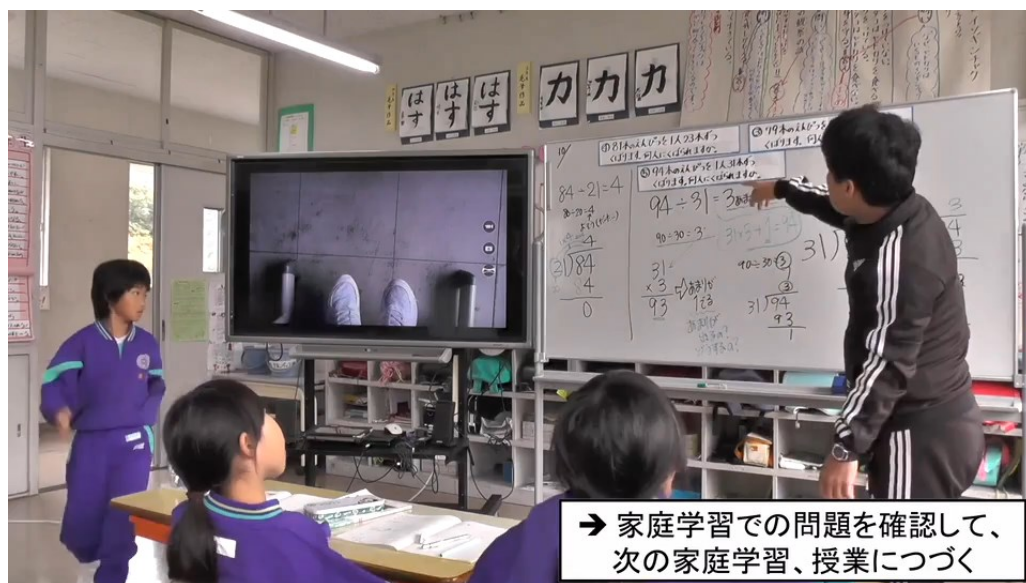
前日の授業



87

授業の終わり

前日の授業



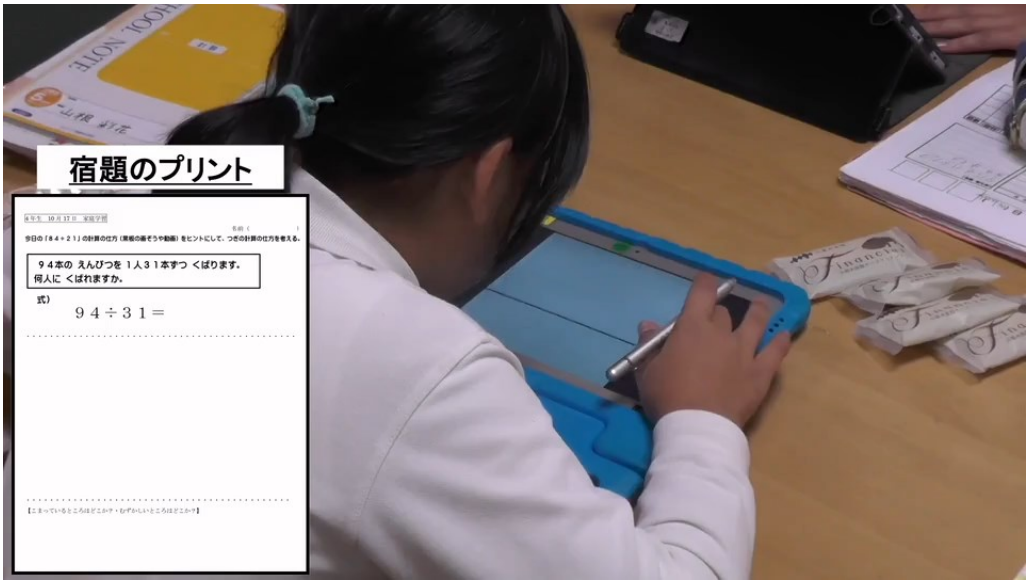
88

家庭学習の様子①



89

家庭学習の様子②



90

家庭学習の様子③



91

家庭学習の様子④



92

家庭学習の確認①

次の日の授業



次の日の授業(家庭学習の確認)
→ 昨日の家庭学習でやったことを
みんなで確認するところから授業に入る

家庭学習の確認②

次の日の授業



→ 自分が家庭学習でやってきたことを、
自分の言葉で説明する

知っておきたいこと(その⑦)

Q⑦:

学習評価って、成績付けのこと??

95

評価には、大きく3点ある！

●Grading 評価

●Evaluation

学習評価

●Assessment

アセスメント

評価

96

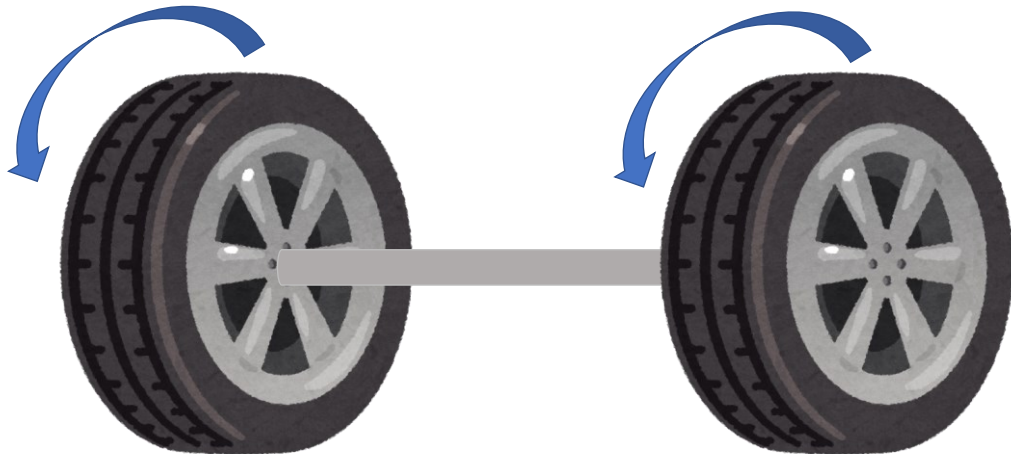
新学習指導要領解説 総則編

- 学習評価は、学校における教育活動に関し、生徒(児童)の学習状況を評価するものである。
- 「生徒(児童)にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒(児童)自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方は重要であり、・・・。

97

**生徒の
主体的な学び**

**教師の
授業改善**



学習評価 = 「指導と評価の一体化」

98

新学習指導要領解説 総則編

- その際には、学習の成果だけでなく、**学習の過程を一層重視**することが大切である。
- 特に、他者との比較ではなく、生徒(児童)一人一人のもつ**よい点や可能性などの多様な側面**、**進歩の様子**などを把握し、学年や学期にわたって生徒(児童)が**どれだけ成長したか**という視点を大切にすることも重要である。

99

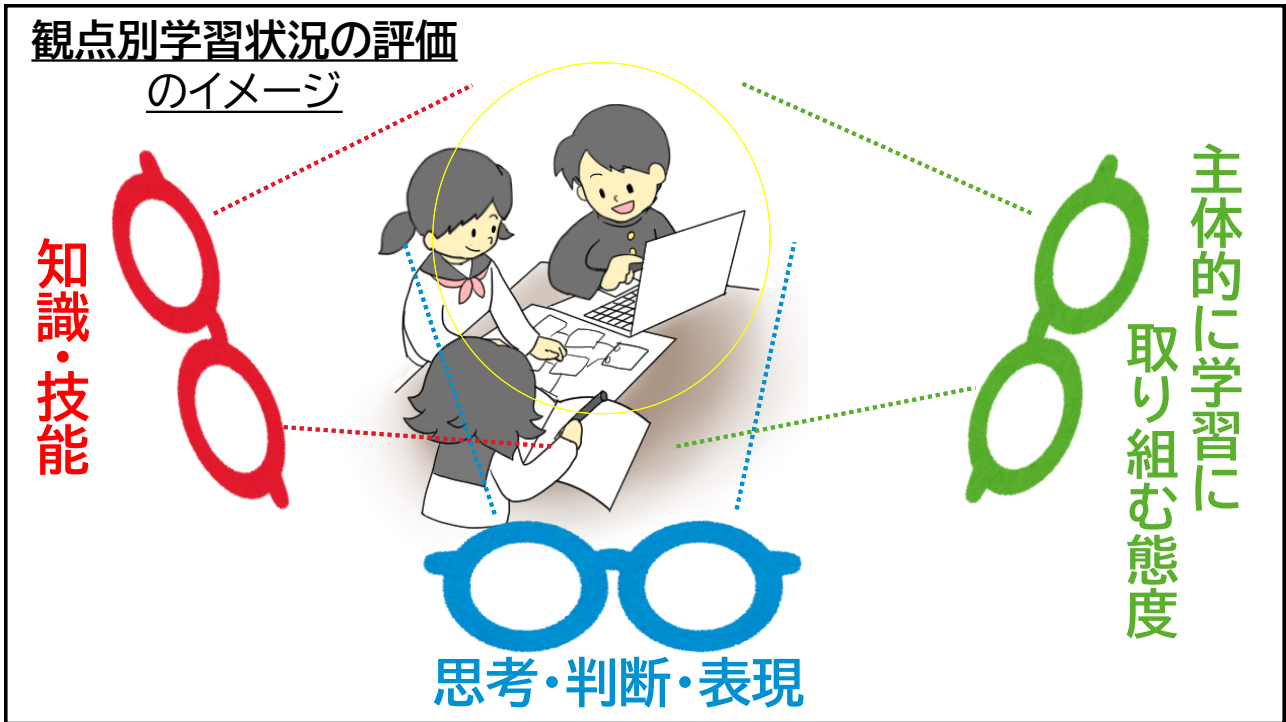
「学習評価の基本的な枠組み」

現在、各教科の評価については、学習状況を分析的に捉える「**観点別学習状況の評価**」と、これらを総括的に捉える「**評定**」の両方について、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施するものとされており、

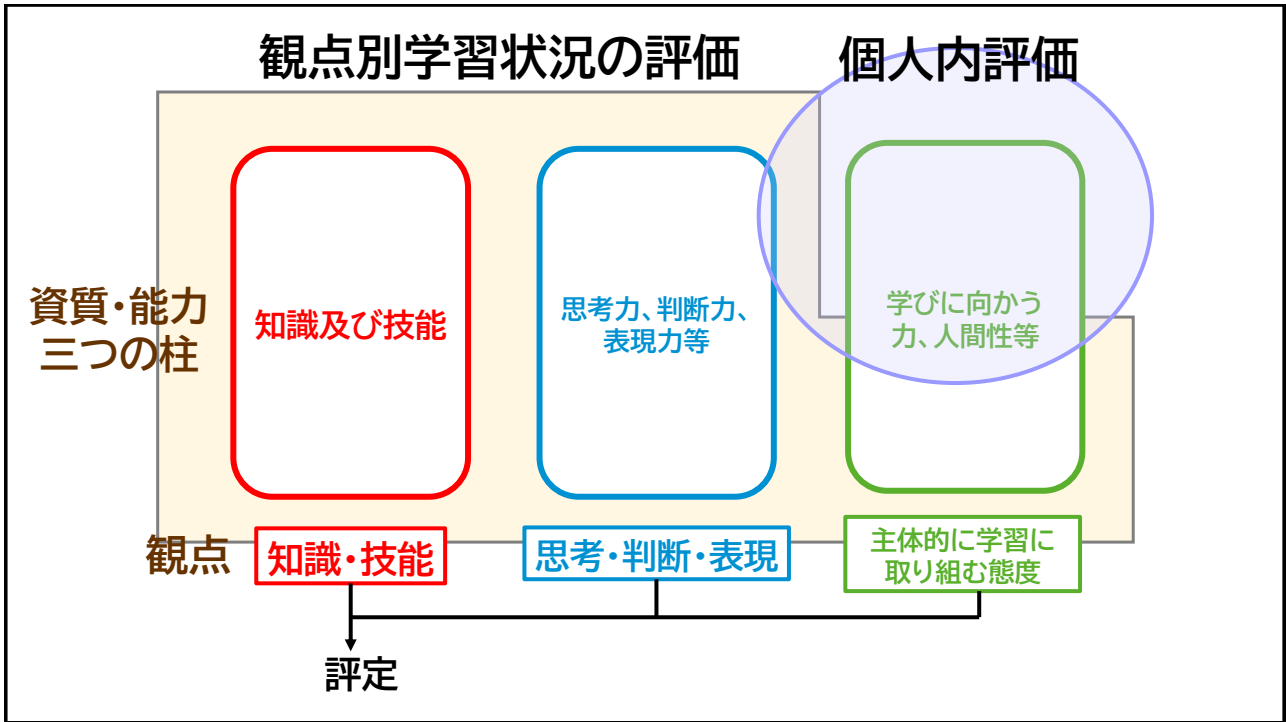
観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童生徒一人一人の**よい点や可能性**、**進歩の状況**については、「**個人内評価**」として実施するものとされている。

文部科学省(2019), 「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」
< https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/01/_icsFiles/afieldfile/2019/01/21/1412838_1_1.pdf >

100



101



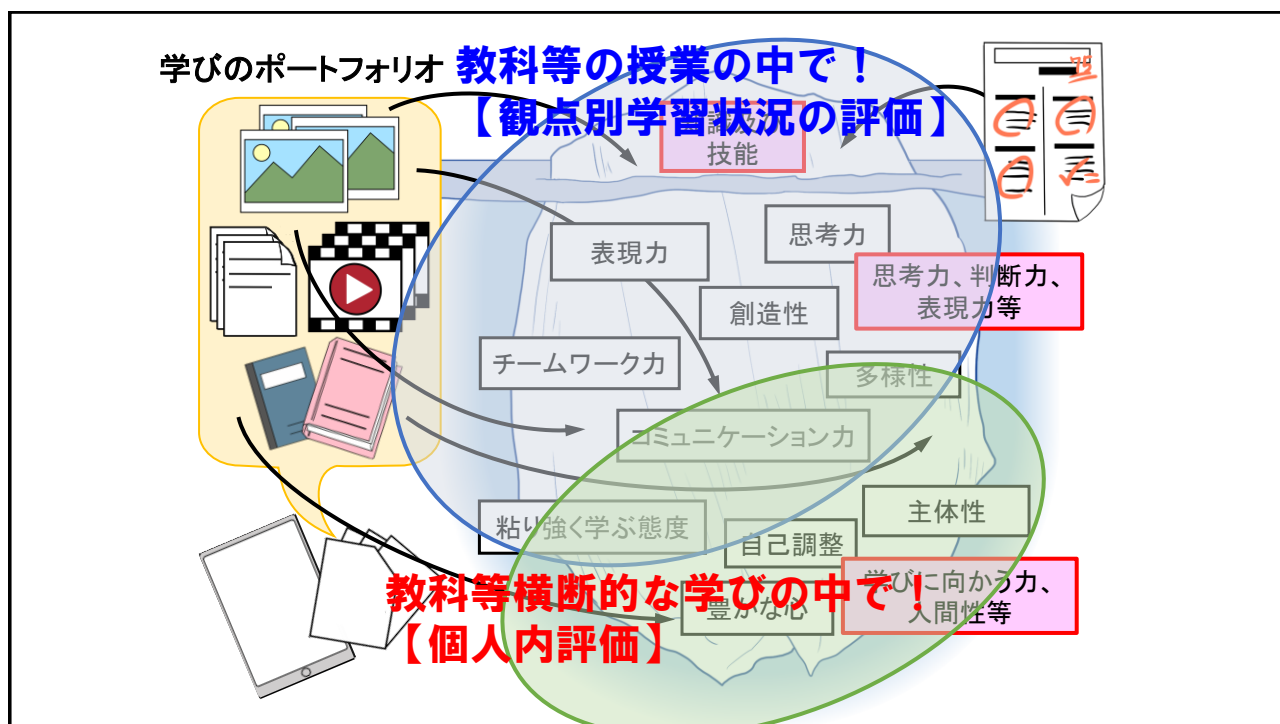
102

新学習指導要領解説 総則編

- 資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動を評価の対象とし、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である。
- 教師による評価とともに、生徒（児童）による学習活動としての相互評価や自己評価などを工夫することも大切である。相互評価や自己評価は、児童（児童）自身の学習意欲の向上にもつながることから重視する必要がある。

学びのポートフォリオの活用

103



104

観点「知識・技能」の評価方法

「知識・技能」の評価の考え方は、従前の評価の観点である「知識・理解」、「技能」においても重視してきたところです。

具体的な評価方法としては、例えばペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図る等が考えられます。

また、生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくこと等も考えられます

国立教育政策研究所(2019):「学習評価の在り方ハンドブック」<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/gakushuhyouka_R010613-02.pdf>

105

観点「思考・判断・表現」の評価方法

「思考・判断・表現」の評価の考え方は、従前の評価の観点である「思考・判断・表現」においても重視してきたところです。

具体的な評価方法としては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられます。

学びのポートフォリオの活用

国立教育政策研究所(2019):「学習評価の在り方ハンドブック」<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/gakushuhyouka_R010613-02.pdf>

106

観点「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法

具体的な評価方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられます。

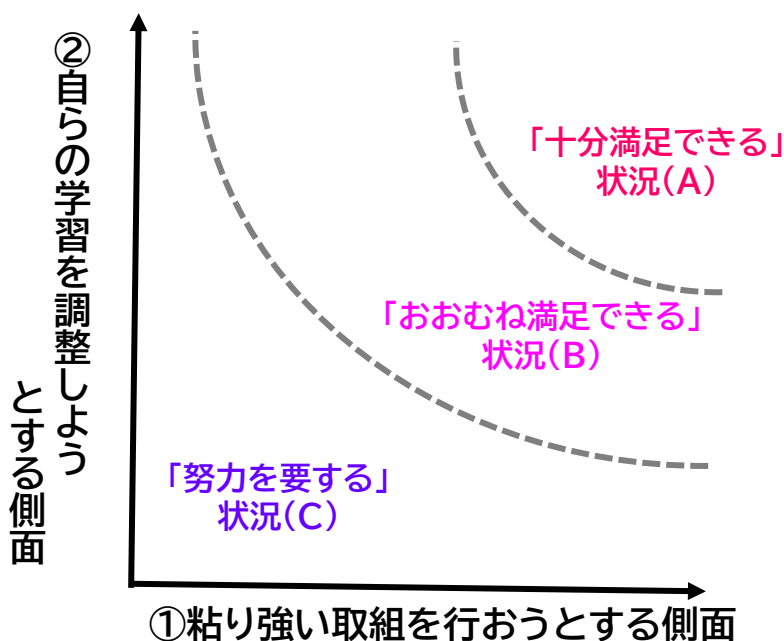
その際、各教科等の特質に応じて、生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮、しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要があります。

学びのポートフォリオの活用

国立教育政策研究所(2019):「学習評価の在り方ハンドブック」<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/gakushuhyouka_R010613-02.pdf>

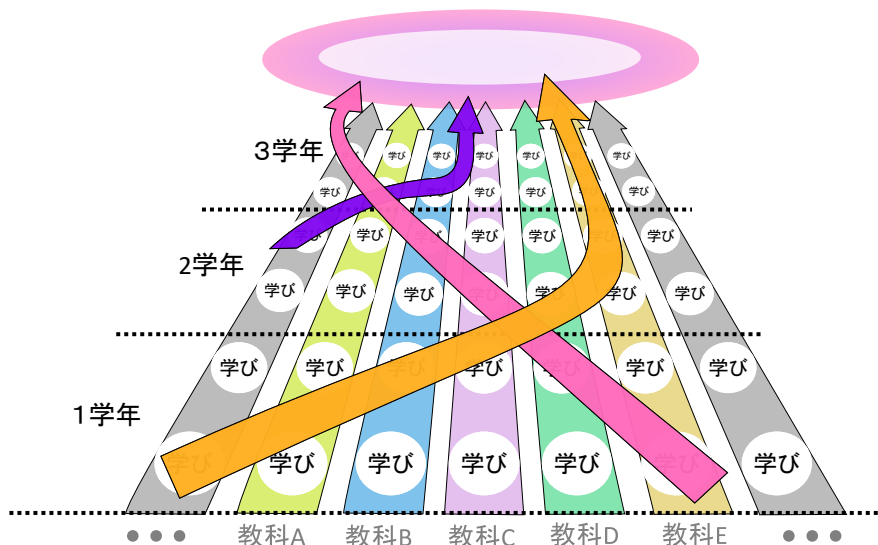
107

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

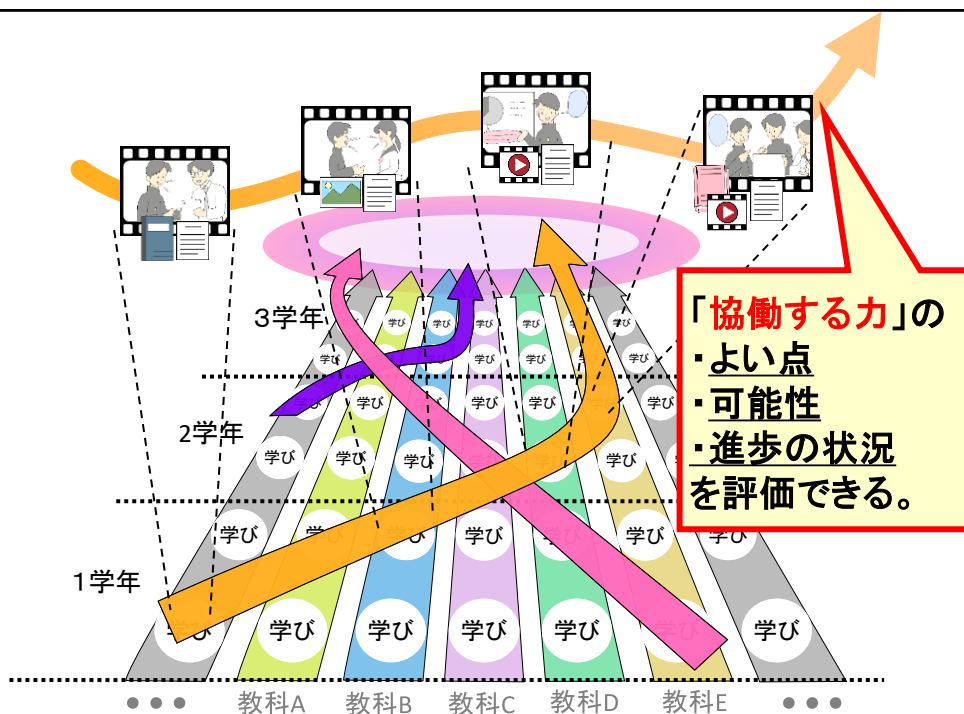


108

教科等横断的な学びを通した 「学びに向かう力、人間性等」の個人内評価

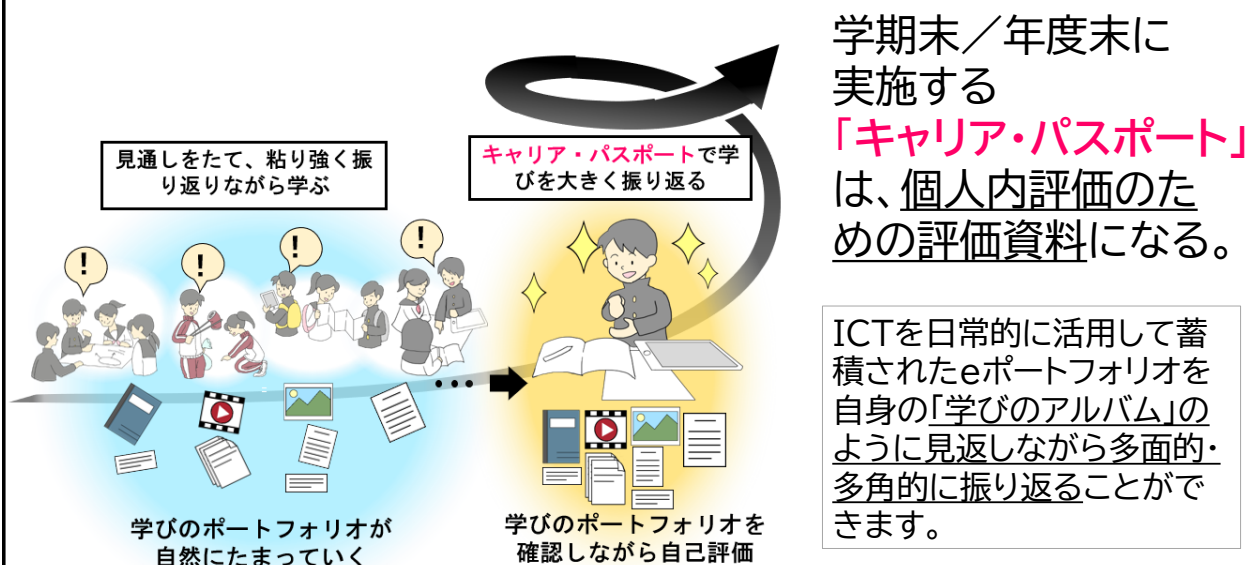


111



112

学びの振り返りモデルとキャリア・パスポート



113

知っておきたいこと(その⑧)

Q⑧:

令和の日本型学校教育って何？

114

令和の日本型学校教育

全ての子供たちの可能性を引き出す、
「**個別最適な学び**」と「**協働的な学び**」を
実現させること

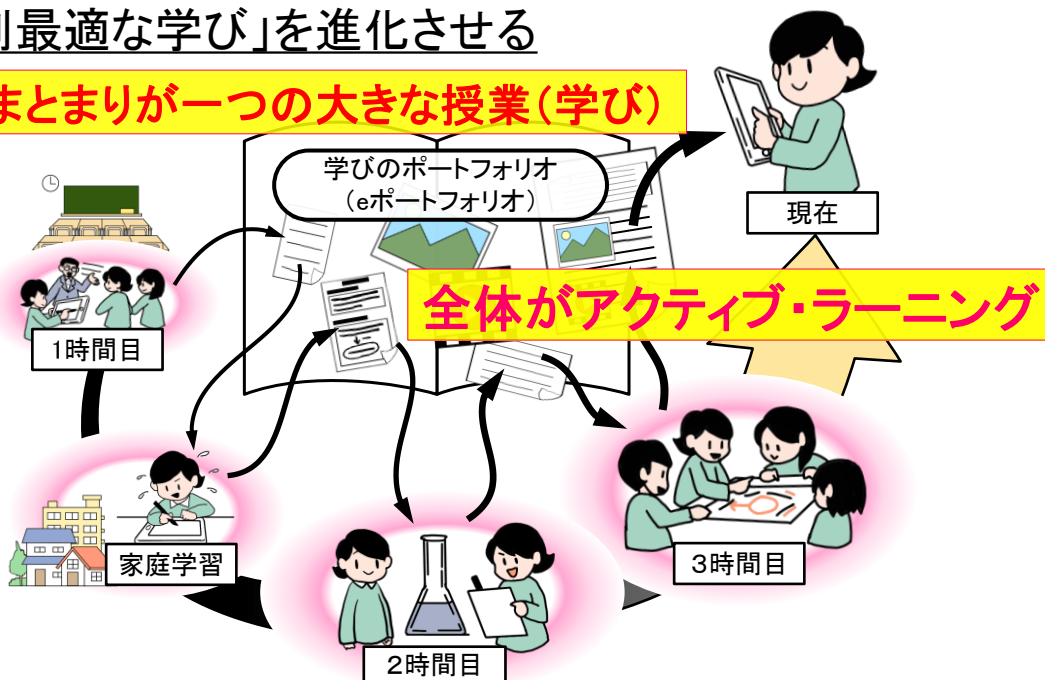


新時代の学びのゴール

115

①「個別最適な学び」を進化させる

内容のまとまりが一つの大きな授業(学び)



116

①「個別最適な学び」を進化させる

・「指導の個別化」

基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度を育成するために、児童生徒一人一人の学習状況に応じて、指導方法・教材などの柔軟な提供・設定を行う

・「学習の個性化」

育成された資質・能力を土台として、教師が児童生徒一人一人に応じた学習活動と学習課題に取り組む機会を提供し、児童生徒自身が学習が最適になるように調整する



「個別最適な学び」へ

117

②「協働的な学び」を深化させる



探究的な学習や体験活動等を通じ、

- ・ 子供同士であるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働・尊重しながら、
- ・ 様々な社会的な変化を乗り越え、子供達自身が持続可能な社会の創り手となる
ことができるよう、
カリキュラム・マネジメントの充実・強化を図る

118

②「協働的な学び」を深化させる

ICTを活用して地理的・時間的制約を緩和することによって、遠隔地の専門家とつないだ授業や他の学校・地域や海外との交流など、今までできなかった学習活動も可能になる。



「協働的な学び」とは

- ・教室は地域全体
- ・地域の全ての人仲間
- ・3年間・6年間を通した教科等横断的な学び

119

知っておきたいこと(その⑨)

Q⑨:

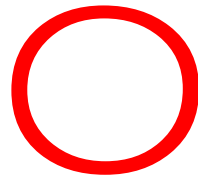
デジタルシチズンシップって何？

120

「解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解ける力」を育む



「蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくこと」



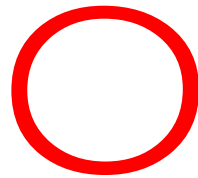
文部科学省 <https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/shukyo/shukyo3/aiyo/aiyo1/1261210.htm>

121

デジタル・シティズンシップとは、ICT（テクノロジー）を使って、これを行っていく能力のことです。



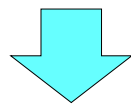
「蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくこと」



122

デジタル・シティズンシップは**ポジティブ**

これまでの「情報モラル」の教育は、
どちらかというと抑制的だった・・・



だったらどうしたらいい？

**ルールを決めて、
ワクワクしながら、あらゆる場面で、
どんどん with ICT で学んでいくこと。**

123

知っておきたいこと(その⑩)

Q⑩:

校務のICT活用って何から始めたらいい？

124

兎にも角にも「情報共有」

- 今の同僚と！
- 過去の先人たちと！
- 児童生徒と！
- (教育委員会の方々と)

125

校内でICT活用を進めていく際のポイント

- 目的を明確にしよう！ ^^
⇒ICT活用は目的ではなく手段であること。
目的は、よりよい、意味のある学びをつくり続けること。
- 1人では何もできないし、チームが大切なことを知ろう！ ^^
⇒仲間、コミュニティづくりが一番大事
- 誰よりも自分自身が楽しんでICT活用にトライ！ ^^
⇒いろいろ自分自身で経験することが何より大切。
- 「知ってるつもり」をなくしていくことを楽しもう！ ^^
⇒知らないことは恥ずかしいことではない。
⇒知っていく過程こそ大切！ **先生方も学び成長し続ける！**

126